



願阿上人御命日に僧職らによって撞かれる報恩の梵鐘十三声

清水 第二二八号 目次

表紙題字・良慶和上筆 表紙写真・夜間拝観で照らされた満開の桜	
天上天下唯我独尊……………清水寺貫主 森 清範	2
小雪舞う中、良慶和上四十一回忌法要奉修……………	15
大西良慶和上法話「太子和讃講話」⑤……………	16
平和へのねがい ホーチミン市情報技術外国語大学特任教授 高橋伸一	28
地球の未来のため 千の知恵で……………清水寺執事補 大西晶允	34
東日本大震災犠牲者十三回忌、本堂で追善法要……………	47
『四十手深要決義』を読む 第25回：清水寺執事補 森 清顕	48
五明洞浄墨 趙樸初筆「竹影掃階塵不動」……………	65
『成就院日記』翻刻・刊行にあたって③……………清水寺史編纂委員 源城政好	66
西国観音巡礼草創1300年記念事業成満……………	80
「清水寺・古写真館」 太平洋戦争で消えた金銅仏……………	85
華麗に多彩に 観音さまに奉納続く……………	86
命の根源の水を讃え「水の日」法要……………	95
七年ぶり大黒天慶讃法要、経堂で今年も作品展……………	97
ゆかりの地の二中学校から修学旅行生来訪……………	99
京都国立博物館で三年ぶり仏像供養会……………	101
三庭苑再興を記念し「京の冬の旅」で月の庭公開……………	103
内外往來……………	105

天上天下唯我独尊

清水寺貫主

森清範

新型コロナウイルス感染症もようやく五月の連休明けから、法律の上では季節性インフルエンザと同じ位置付けとなりました。三年間、長かったですね。皆さんは感染しませんでしたでしょうか。ずっと心に案じておりました。

インフルエンザと同じ扱いになるといので、春ごろから世の中が随分と緩やかになりました。四月に西国三十三所に加え坂東三十三所、秩父三十四所の観音霊場がすべて東京に集まって「日本百観音」のお砂踏みをするというので、私もお話をしに新幹線で行きました。その時に、もうコロナについて注意する車内アナウンスがありませんでした。以前はマスクをしてくださいとか、あまり大きな声でしゃべらないようにしてくださいとか、座席の向きを回さないようにしてくださいとか、いろいろとアナウ

ンスがありました。

マスクするのも各自の自由になりました。しかし、マスクは花粉症の方にとっては大切な防御策になります。岸田総理大臣が国会で花粉症対策に係りの大



談笑する森清範貫主

臣で会議を開く方針を言っておりましたが、それほど大変な社会問題になっていくのです。お蔭さんで私は花粉症ではありません。しかしながら、それを人に言っただけとはいわれませんでした。いつ急になるかわからないのです。

撫でる賓頭盧さんの御利益

振り返ってみますと、コロナ対策で初めての緊急事態宣言が東京や大阪に発令されたのが三年前の令和二年四月七日でありました。お釈迦さまの誕生日の前の日です。桜満開の春という時です。

「春」という言葉は、晴天が多くて「晴る」の意味からきているとか、万物が生まれて開く「発る」季節であるからとか言われます。英語ですとスプリング (spring)、ばねのように陽気が急に突き上がってきて木の花の芽が出てくる意味です。実に上手い言い方です。木の芽立ちの頃ということになります。

昔から木の芽立ちの時節は奇妙なことが起こると言われてきました。そのような気持ちで新聞を見ていましたら、善光寺の賓頭盧さんが盗まれた記事が

載っていました。五日後に無事戻ってきましたが、大きな賓頭盧さんを盗んでいく人がいるというのは奇妙な話です。

清水寺にも賓頭盧さんが三体あります。どこに祀られていたかといいますと、朝倉堂の前の轟門と本堂、それに阿弥陀堂です。賓頭盧さんはお釈迦さまの高弟ですが、信者さんが尊像を撫でる風習があります。自分の体の悪いところと同じところを撫でるとよくなると信じられているのです。耳の悪い人は耳を、腰の悪い人は腰をさすります。それで賓頭盧さんの体はすり減ってしまいます。清水寺の賓頭盧さんもよくすり減っています。ところが、戦後になってGHQがやってきて、「多くのお参りの人が触ったところを触るのは汚い。お堂の中に入れない」と言われました。それ以後、朝倉堂の中に祀られるようになりました。現在、一体は新倉に納められています。

賓頭盧さんを詠んだ江戸川柳にこのような句があります。

びんづるをもちやげて痔持撫る也

痔持ちは痔を患っている人です。悪いところを治

そうと思うと、賓頭盧さんのお尻を触らないといけません。それで持ち上げて撫でたのです。善光寺の賓頭盧さんを持って行った人も痔持ちだったのかもかもしれません。

痔の痛さは経験した人にはよくわかります。もう



朝倉堂に安置の賓頭盧尊者。顔が撫でられ擦り減っている

脳天を突き破るような痛さです。奇妙な話になってきました。先生に相談しましたところ、「手術した方が速い」と言いますので手術を受けました。電気メスで焼くのです。すると匂いがします。ピフテキを焼くような良い匂いです。術後、入院してあげましたが、毎日食事をします。食べますと便を排泄はいせつしますが、当然のことながら、そこを通ります。それはそれは痛いものの。といって食べないわけにはいきません。小さな医院の二階にベッドが十床ぐらいあって入院したのですが、朝は先生の奥さんが食事を作り、昼と夜は退院が一番近い患者がほかの人の外食の注文をとって世話をします。ですから、その人は術後の事情を実によく知っていて「いつ切ったのや。昨日か。痛いやろ。まあ辛抱せいや。もうちょっとでよくなる」と言いながら食事の注文を聞いて回りまわす。便が固いと痛い。それで柔らかくする薬をくれますが、柔らかい便は沁みます。何にしても痔の痛さは飛び上がるような痛さで、神仏にすぎる気持ちがよくわかります。

黄砂の季節、桜の教訓

そのような痛い体験を思い起こさせた賓頭盧さんの奇妙な盗難でしたが、その頃は黄砂がひどい時でした。「霾」といいます。日本の歳時記では「つちふる」と読んでいます。モンゴルや中国北部の黄土地帯で舞い上がった土埃が風に乗って飛んでくるのです。「つちぐもり」「つちかぜ」というのも同じ春の季語です。四字熟語には「黄塵万丈」というのがあり、中国の書物『古今注』には「天、黄土を雨らし、昼夜昏霾」と書いてあります。中国では大変な黄砂があるのです。日本には海を渡ってやってきますから、まだましです。

四十五年前、私は講座の皆さんと一緒して中国・西安へ仏跡巡拝に行ったことがあります。ちょうど黄砂の季節でした。西安ではもう前が見えませんがイドさんがどうしたかといえますと、ロープを持ってきて、私たちに持たせて「皆さん、ロープを離したら日本に帰れませんよ」と言うのです。それくらい大変でした。

黄砂が近年、さらにひどくなっていて地球温暖化の影響もあるようです。今年の桜は温暖化で一週間あまり早く開花しました。昔はお釈迦さまの降誕会の頃が満開でしたが、今年はもう散っていました。

清水寺の奥の院から子安塔に行く道は桜道と呼ばれています。二十三年前の本尊御開帳を記念し中腹一带に山桜を植え道に沿っています。その桜を植えた頃のこと、夏に日照りが続き葉っぱがしおれています。見るからにかわいそうでしたから植木屋さんに「桜が水を欲しいと言っているやないか。やったらどうや」と言いました。すると植木屋さんは「枯らしたらあかんのは私もわかってる。日照りで水がない時に、桜にたっぷり水をやるのはよくない。水がなくても根が少しでも水を吸う桜に育てないといけない」と言うのです。「おお、なるほど」と思いました。

京都・嵯峨野に佐野藤右衛門さんという有名な造園家がおられます。造園業「植藤」第十六代当主で、桜守と言われています。この前、新聞に藤右衛門さんが寄贈した桜を東日本大震災の津波が到達したと

ころに植える話載っていました。「浪分桜」なみわけざくらと名付け津波の記憶を後世に伝えようというのです。その中に藤右衛門さんの植樹の話が書いてありました。桜は栄養分の多い土に植えてはいけないそうです。別の地の栄養分の少ない下の方の土を持ってきて植えるのだと言います。栄養の良いところに植えたら、桜はいつも栄養があると思って育っていきませんが、少ない土の上に植えると桜の根は少しでも栄養分を吸収しようとする桜になると話していました。なんだか、われわれ人間の教育に通ずる言葉です。

日本人好みの桜の語源

桜は千年も生きる樹木です。福島県三春町に滝桜という千年桜があります。一度、見に来てほしいとお招きがありました。訪ねますと山の土手に桜の巨木が枝を広げていて、さながら滝が流れ下るように花を咲かせていました。その子孫木が清水寺に二本植えられています。一本は子安塔の東の丘にあります。ここでは滝のようにはならないでしょう。もう一本は仁王門の南にあります。こちらは随分と大き



森眞主が平成26年に訪ねた際、満開だった三春滝桜